

第6章 空間利用計画（ゾーニング）

6-1 金沢駅～金沢港の空間利用

金沢駅西地区については、金沢駅から金沢港へ向かって都心軸が形成され、沿線には県庁を核とした数多くの商業施設や業務施設が立地する金沢西部副都心が形成されています。

金沢港の「無量寺～金石エリア」は、人流・賑わい機能を有したゾーン、戸水～御供田～大浜地区については、物流機能を有したゾーンとして棲み分け、土地利用及びそれぞれの機能集積を図ります。

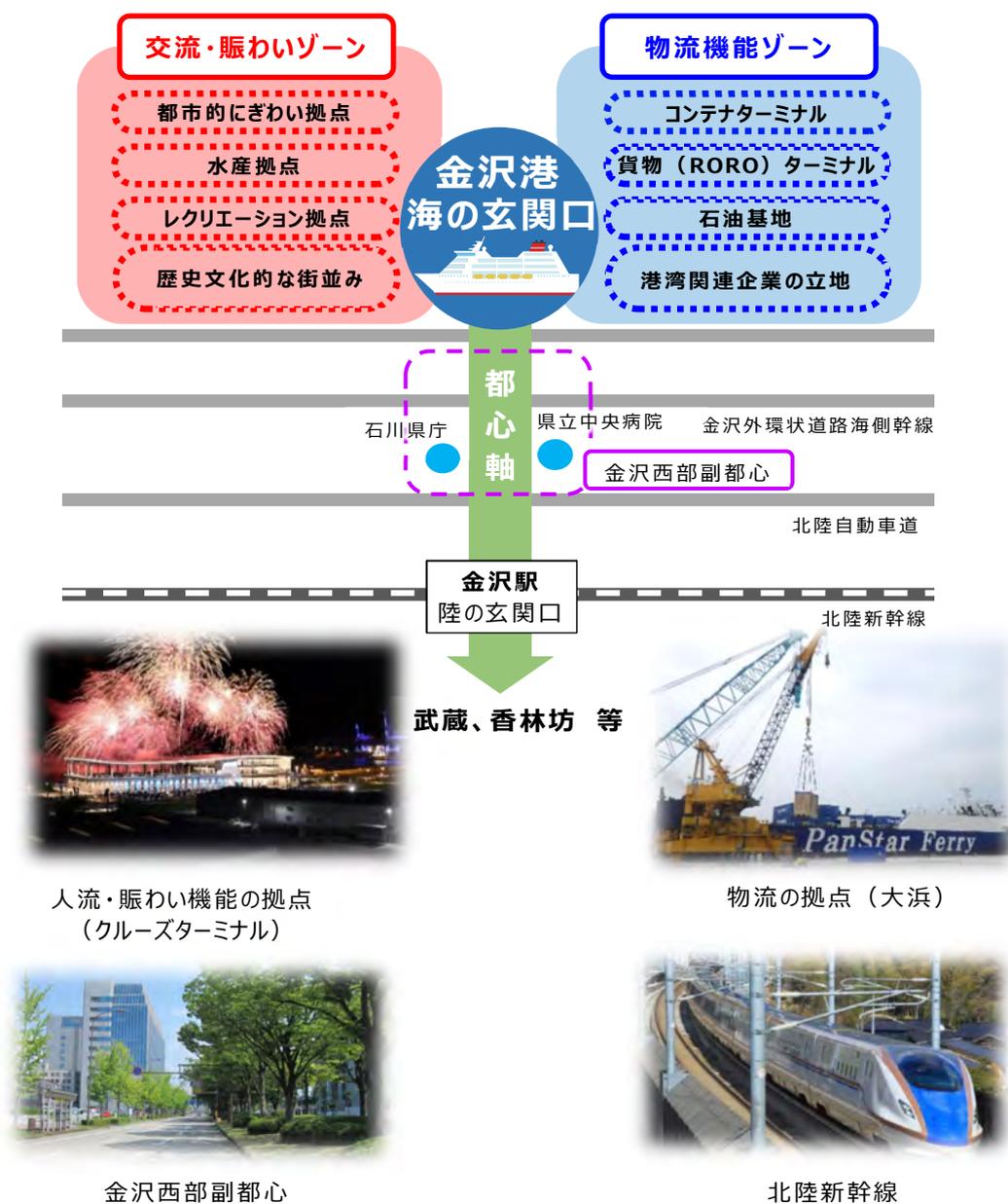
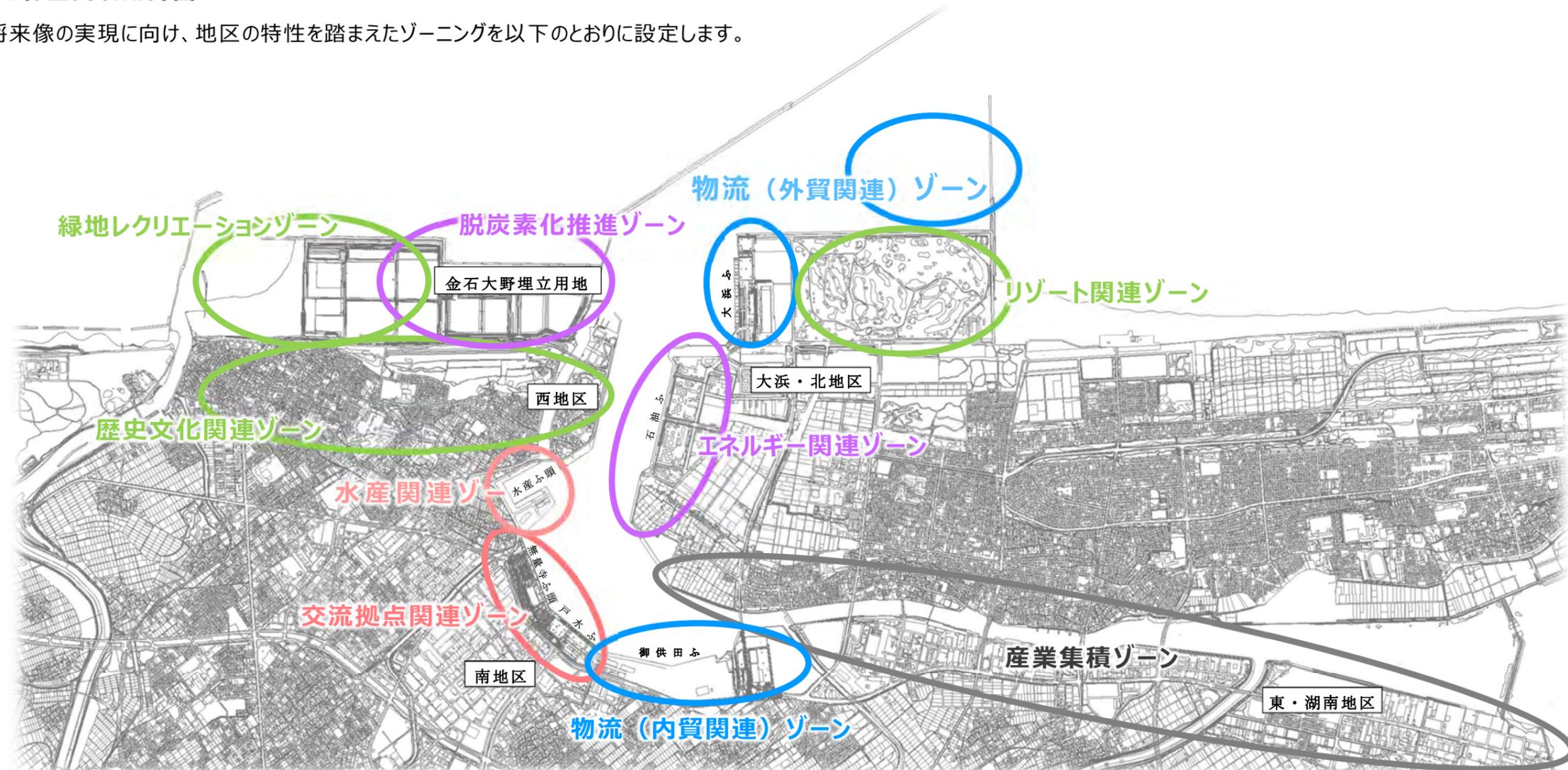


図 6-1 金沢港の空間利用イメージ

6-2 金沢港全体空間利用計画

金沢港の将来像の実現に向け、地区の特性を踏まえたゾーニングを以下のとおりを設定します。



<p>物流（外貿関連）ゾーン</p>  <p>コンテナ貨物や RORO 貨物といった外貿貨物を取扱うゾーン</p>	<p>物流（内貿関連）ゾーン</p>  <p>セメントや砂利・砂、鋼材などの内貿貨物を取扱うゾーン</p>	<p>交流拠点関連ゾーン</p>  <p>クルーズターミナルを核とした賑わい空間を創出するゾーン</p>	<p>水産関連ゾーン</p>  <p>水産物の水揚げや販売などを行う水産物を取扱うゾーン</p>	<p>産業集積ゾーン</p>  <p>臨海部に立地する企業が産業活動を行うゾーン</p>
<p>エネルギー関連ゾーン</p>  <p>石油基地や LPG 基地などエネルギーを取扱うゾーン</p>	<p>脱炭素化推進ゾーン</p>  <p>新たなエネルギーに対する要請に応じて活用するゾーン</p>	<p>緑地レクリエーションゾーン</p>  <p>金石の緑地や海岸を楽しむことができるレクリエーションゾーン</p>	<p>リゾート関連ゾーン</p>  <p>民間事業者と連携した新たな滞在型の観光拠点を創出するゾーン</p>	<p>歴史文化関連ゾーン</p>  <p>歴史的な金石・大野地区の町並みと港が共生するゾーン</p>

図 6-2 金沢港空間利用計画（ゾーニング）

6-3 地区別空間利用計画

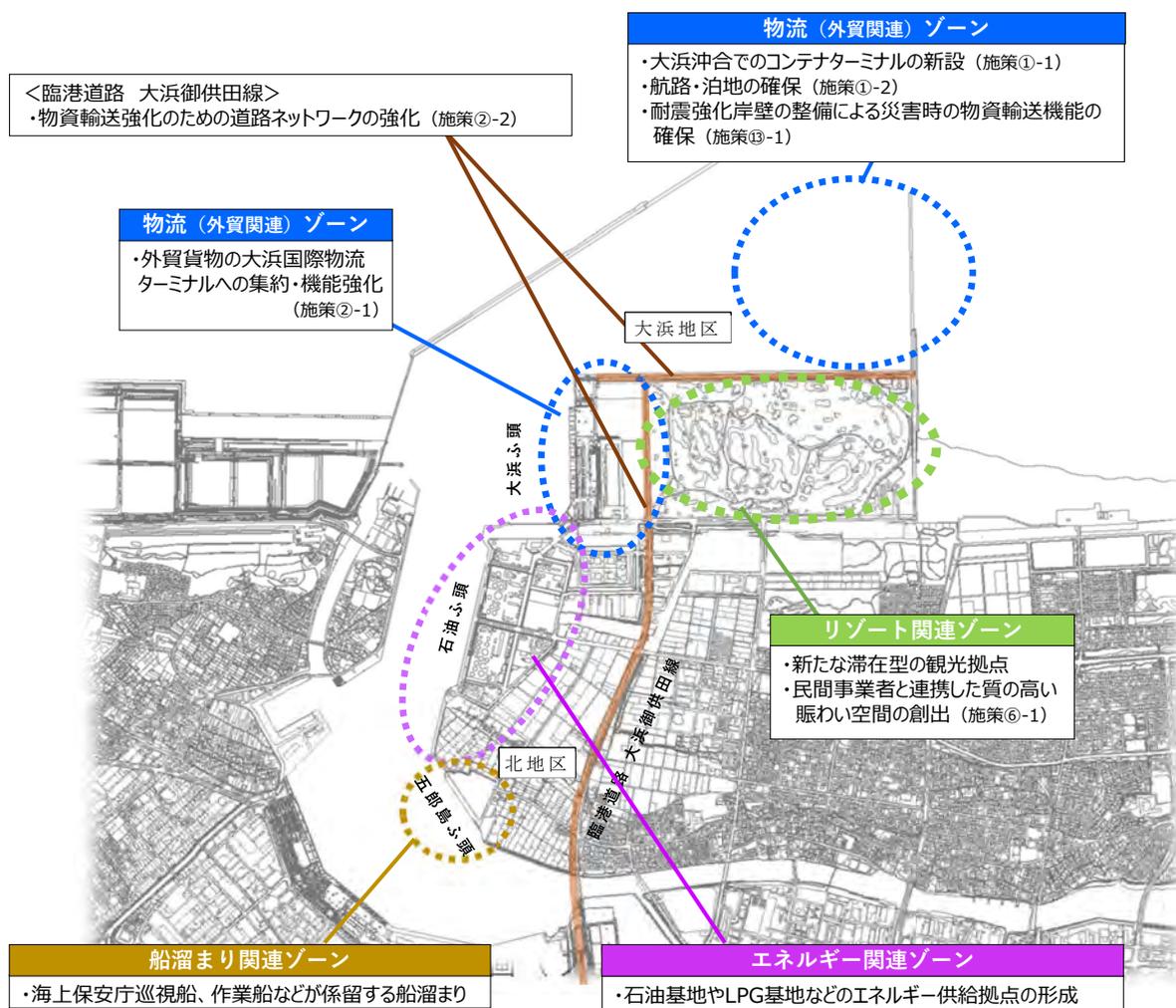
6-3-1 大浜・北地区

大浜地区は、既存の大浜ふ頭に加え、船舶の大型化や貨物量の増大に対応するため、大浜沖合に計画する新たなコンテナターミナルを「物流（外貿関連）ゾーン」と位置づけます。

なお、新たにリゾートホテルが建設され、滞在型の観光拠点が生まれると期待されるエリアを「リゾート関連ゾーン」に位置づけ、民間事業者と連携し、より一層の賑わい空間の創出を図ります。

北地区は、石油ふ頭背後地を引き続き石油関連企業などの集積地として「エネルギー関連ゾーン」とし、五郎島ふ頭は、海上保安庁巡視船、作業船などが係留する「船溜まり関連ゾーン」に位置づけます。

また、大浜沖合でのコンテナターミナルの新設や外貿貨物の大浜国際物流ターミナルへの集約・機能強化により、臨港道路大浜御供田線の貨物車などの交通量が増加することが見込まれるため、物資輸送強化のための道路ネットワークの強化を図ります。



6-3-2 南地区

御供田ふ頭は、コンテナ機能を大浜沖合へ機能移転後、既存のセメントや鋼材貨物も扱う内貿貨物を中心とした「物流（内貿関連）ゾーン」に位置づけます。

戸水ふ頭は、外貿貨物（RORO貨物）を大浜国際物流ターミナルへ機能移転後、クルーズ船の増加や多様な需要に対応できるよう受入体制の強化を行い、無量寺ふ頭とともにクルーズターミナルを核とした質の高い賑わい空間の創出ができるよう「交流拠点関連ゾーン」とします。

水産ふ頭は、「水産関連ゾーン」として、引き続き水産振興の拠点とするとともに、隣接する交流拠点と連携強化に努め、さらなる金沢港の賑わい創出を目指します。

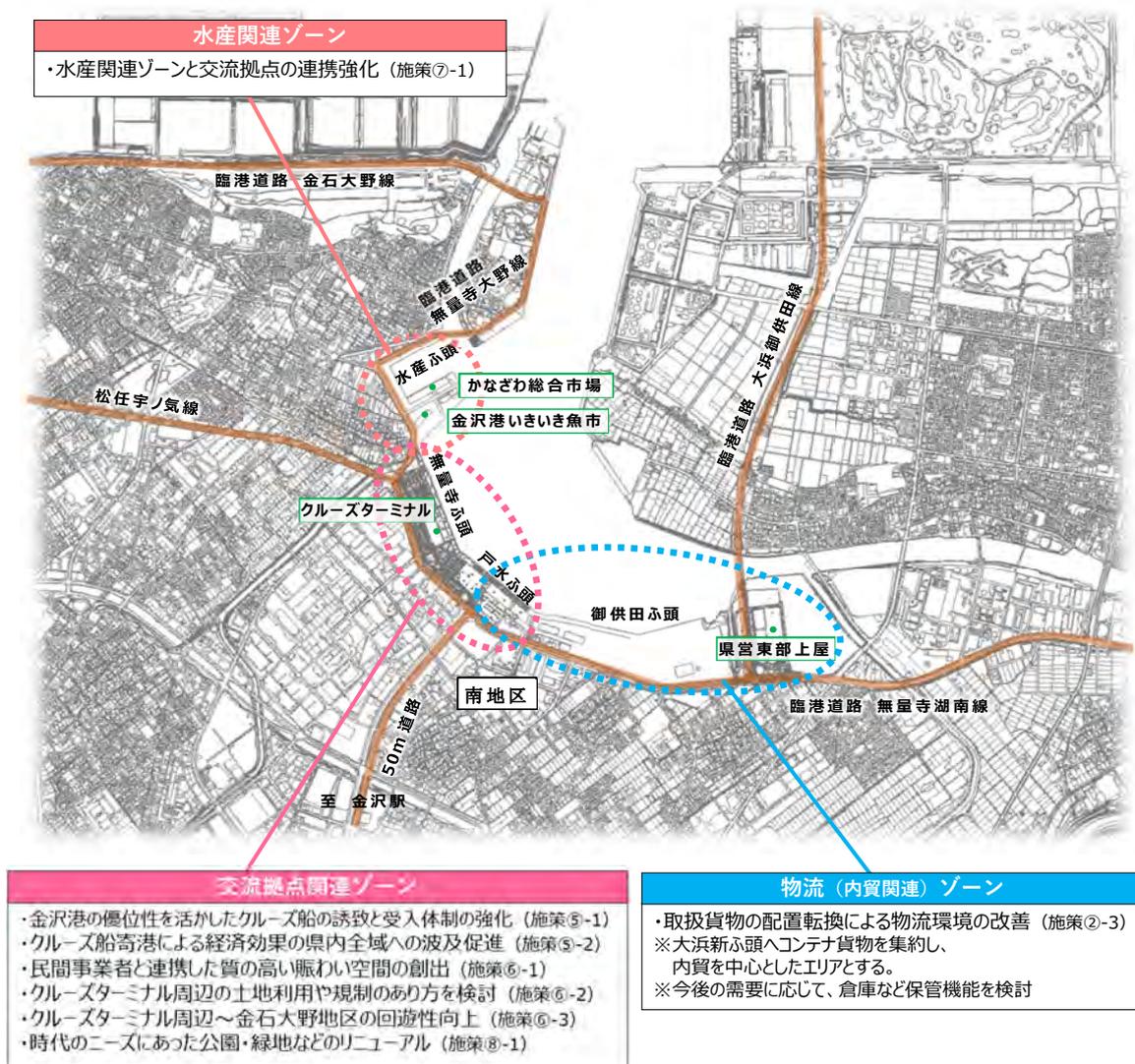


図 6-4 空間利用計画（ゾーニング：南地区）

6-3-3 金石・西地区

金石大野埋立用地は、金石側を金石海岸と一体となった自然環境を生かした「緑地レクリエーション関連ゾーン」に、大野側は、今後の社会の動向を注視しながら、新たなエネルギーに対する要請に応じて活用を検討する「脱炭素化推進ゾーン」に位置づけます。

旧大野川沿いは、引き続きプレジャーボートや官公庁船、作業船が係留する「船溜まり関連ゾーン」にします。

伝統的な町並みが残る金石地区および大野地区と、大野お台場公園や釣り護岸を有する西地区を「歴史文化関連ゾーン」に位置づけ、クルーズターミナル周辺と一体となった賑わいの創出を図ります。

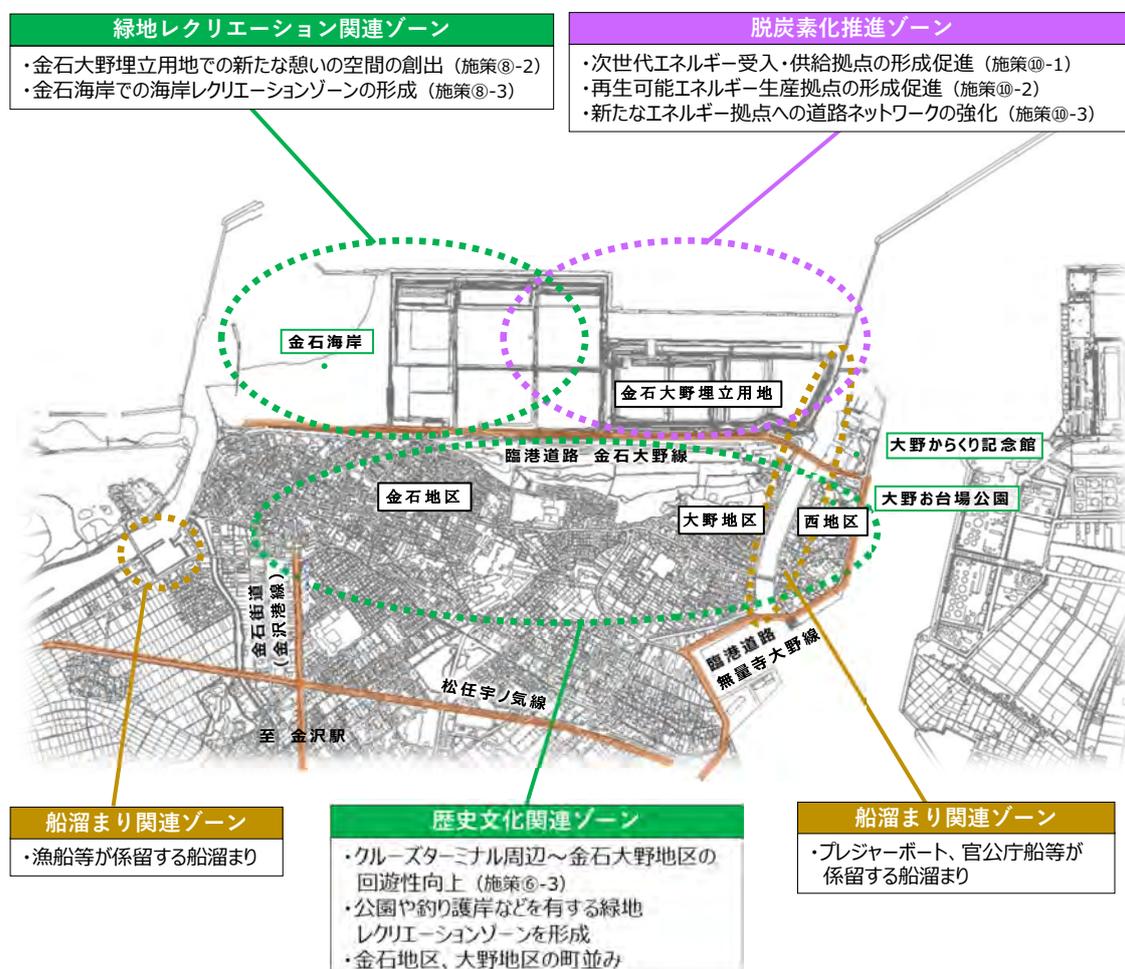


図 6-5 空間利用計画（ゾーニング：金石・西地区）